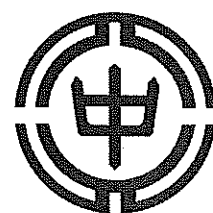


令和5年度
第2学年



授業シラバス 年間指導計画

国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、
技術家庭(技術冊・家庭冊)、英語

道徳、サイエンス

教科名	年間授業時数	学年
国語	175	2
授業形態	指導者名	
一斉授業	中河 舞・平井 敬貴	

教科書（発行所）	中学校国語2（東京書籍）・中学校書写（学校図書）
教科書以外の教材（発行所）	中学必修テキスト2（文理） 単元別漢字2（秀学社） ウイニングPLUS中学校問題集国語2（好学出版） 楽しく学べる文法ノート（新学社） 意味から学ぶ頻出漢字3000（第一学習社） 国語便覧（浜島書店）

目標	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。		
学習のねらい	○知識及び技能 ・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 ○思考力、判断力、表現力等 ・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の学習を通して、論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ○学びに向かう力、人間性等 ・言葉がもつ価値を認識するとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にしてい思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。		
定期考査	出題方針	教科書・授業の内容と文法ノートの問題を中心に出题する。	
	範囲 (予定)	第1回考査	「未来へ」「手紙の効用」「短歌を楽しむ」 「字のない葉書」「辞書に描かれたもの」「形の似た漢字」
		第2回考査	「ハトはなぜ首を振って歩くのか」「卒業ホームラン」 「黄金の扇風機」「サハラ砂漠の茶会」「他教科で学ぶ漢字(1)」
		第3回考査	「落葉松」「枕草子・徒然草」「平家物語」 「同訓異字」「同音異義語」
		第4回考査	「漢詩」「走れメロス」「鯉節—世界に誇る伝統食」「坊ちゃん」 「他教科で学ぶ漢字(2)」「類義語・対義語」
学年末考査		「『正しい』言葉は信じられるか」「漢詩」「カメレオン」 「私が一番きれいだったとき」	
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は国語の「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査、授業中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など)	毎日の漢字テストに粘り強く取り組み、言葉の力の基礎を身につけていきましょう。予習で教科書を読み、わからない語句や難しい表現をチェックし、辞書などで確かめ、ノートに整理してみましょう。また、各教材末に置かれている「学びの扉」や授業中に配布されるプリントの問題を考えてみましょう。授業中の要点・板書事項をノートに書き写すだけでなく、授業中の他の仲間の発言にも注意して、ノートに残すようにすると、自分の考えを広げることができます。 復習として、その日のうちに再度、教科書やノートを確かめ、メモなどの走り書きをきちんと整理しておく、授業の内容を定着させることができます。古典分野では、覚えなければならない学習事項が多いので、予習・復習を丁寧におこないましょう。 なお、課題として配布している問題集は、解答の根拠となる箇所を線を引きなど見える化し、答え合わせの際には解説をよく読み込み、理解を深めることを大切にしましょう。		

年間授業計画表(45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	「未来へ」 「手紙の効用」 「短歌を楽しむ」	2 2 2	・詩に描かれていることを解釈し、読み方を工夫して音読する。 ・読み取ったことを踏まえ、知識や体験も交えて、考えを広げる。 ・短歌に詠まれた情景や心情を想像し、短歌を読み味わう。
	5	「短歌のリズムで表現しよう」(書) 「話し言葉と書き言葉」 「形の似た漢字」 「字のない葉書」	3 1 1 3	・自然や体験を題材に、表現を練りあげて短歌を作る。 ・話し言葉と書き言葉の特徴について理解する。 ・形の似た漢字に注意して、漢字を文や文章の中で使う。
		「言葉の力(人物像を捉える)」 「辞書に書かれたもの」(読む) 《第1回考査》	1 2	・人物の言動の意味に注意して、人物像を捉える。 ・登場人物の言葉や行動の意味を考えて、作品を読み味わう。
	6	◎「行書と仮名を書こう」	5	・楷書と仮名の字形、筆づかい、行の整え方について理解する。
		「言葉の力(対話的な言葉の力)」 「考えを比べながら聞こう」(聞) 「他教科で学ぶ漢字(1)」	1 2 1	・相手の立場や考えを理解し、自分の考えを深める。 ・相手の考えとその根拠に注意して話を聞き、自分の考えと比べる。 ・他教科で学ぶ語句に用いられる漢字を理解し、漢字を文章の中で使う。
	7	「言葉の力(論理的な言葉の力)」 「ハトはなぜ首を振って歩くのか」 「郷土のよさを伝えよう」(書)	2 5 5	・複雑な情報の整理の仕方を理解し、情報を図や表に整理する。 ・まとまりどうしの関係に注意して文章の構成を捉え、内容を読み取る。 ・身近な地域の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを絞り込む。
中期		「漢字の意味」 「卒業ホームラン」	1 2	・漢字の意味を理解して、漢字を文や文章の中で使う。 ・読書の意義を知り、おススメの本の魅力を紹介し合う。
	9	「黄金の扇風機」 「サハラ砂漠の茶会」 《第2回考査》	2 2	・文章を読み比べて、論の進め方について考える。 ・文章の内容について、自分の知識や体験と結び付けて考えを深める。
		◎「行書と仮名を書こう」	5	・楷書と仮名の字形、筆づかい、行の整え方について理解する。
		「言葉の力(論理的な言葉の力)」 「根拠を吟味して書こう」(書)	2 4	・論証の組み立てを捉え、説得力があるかどうかを吟味する。 ・自分の考えが伝わる文章になるよう、根拠の適切さについて吟味する。
	10	「落葉松」	2	・詩に描かれた情景や心情を捉え、リズムを感じ取りながら朗読する。
		「枕草子」 「平家物語」 「徒然草」 「同訓異字」 「同音異義語」 《第3回考査》	5 8 5 1 1	・筆者のものの見方や考え方、表現の仕方を捉える。 ・表現の特徴に注意して朗読し、古典の世界に親しむ。 ・見聞きしたことや体験したことをもとに、表現を工夫して随筆を書く。 ・同訓異字について理解し、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・同音異義語について理解し語感を磨き語彙を豊かにする。
後期	11	「漢詩」 「走れメロス」 「他教科で学ぶ漢字(2)」 「坊ちゃん」 「人物を描写しよう」(書) 「類義語・対義語」	6 7 1 4 1 1	・表現の特徴に注意して朗読し、漢詩を味わう。 ・人物像を捉え、人物の言動について考えながら、作品を読み深める。 ・他教科で学ぶ語句に用いられる漢字を理解し、漢字を文章の中で使う。 ・文学作品を読み、登場人物の行動や人柄、考え方について考えを深める。 ・人物像が伝わるように、人物の言葉や行動・態度などを描き出す。
	12	「鯉節—世界に誇る伝統食」 「言葉の力(論理的な言葉の力)」 「話し合いで問題を検討しよう」(話) 「説得力のある提案をしよう」(話) 《第4回考査》	2 1 4 4	・読書の意義を知り、目的に応じて情報を集め、レポートにまとめる。 ・発言や論証を吟味し、質問したり反論したりする。 ・多様な立場や意見を想定してテーマについてメリット・デメリットを出し合う。 ・聞き手に納得してもらうために、説得力のある話の構成を考える。
		◎「行書と仮名を書こう」	5	・行書の特徴、筆づかいについて理解し、文字の大きさ、配列等に注意して書く。
	1	○百人一首 「『正しい』言葉は信じられるか」	4 5	・百人一首を通して、伝統文化を尊重する。 ・文章を読んで、事実の述べ方が読み手に与える印象の違いについて考える。
	2	「言葉の力(文学的な言葉の力)」 「いきいきと描き出そう」(書)	1 4	・描き方を工夫して、想像を誘う表現をする。 ・人物や情景をいきいきと表すように、描写を工夫して物語を作る。
	3	「私が一番きれいだったとき」(詩) 「カメレオン」 《学年末考査》	2 3	・人物の心情に注意して、詩に込められた思いを考える。 ・登場人物の言葉や行動を考えて、作品を味わう。
		「スズメは本当に減っているのか」 「古典芸能に親しもう」	4 3	・文章と図表を結び付けて読み、図表の役割を考える。 ・能、狂言のせりふを声に出して読み、古典芸能に親しむ。
	通年	演習	35	「文法ノート」の解説を読み、品詞やその活用等について学習する。
		総時間数	175	

教科名	年間授業時数	学年
社会科	136.5	2
授業形態	指導者名	
前期：一斉授業 後期：一斉授業	田中優輝	

教科書（発行所）	中学生の地理/地図帳（帝国書院）新しい社会歴史（東京書籍）
教科書以外の教材（発行所）	実力練成テキスト地理（文理）地理ワーク（学宝社） 実力練成テキスト歴史（文理）歴史ワーク（学宝社） 他

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の姿、日本の姿をみるのに必要な地理的事象を理解する。また、地図、資料の活用ができる技能を磨く。 ・地理的な見方や考え方の基礎を培いつつ、身近な地域や都道府県、日本の諸地域などを多面的・多角的に捉える力を養う。 ・歴史的事象の学習を通して、時代を大きく捉える見方・考え方を身に付ける。また、各時代の政治のしくみ、人々の生活、文化を様々な角度から捉えられる力を養う。 ・自ら課題を設定し、自ら調べ、課題を解決していく力を身に付ける。 		
学習のねらい	<p>（地理的分野）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球儀や地図を活用して、世界的視野からみた国土の位置と領域に関する特色を多面的・多角的に追究できる。 ・日本地図を活用して、47都道府県の位置と名称や日本の地域区分を捉えることができる。 ・都道府県の地域調査を始めるにあたって、県を調べる際の地域調査の一般的な方法や手順を理解する。 ・市町村規模の地域や都道府県規模の地域の調査と比較しながら、国家規模の地域を調査する際の一般的な方法を身に付ける。 ・わが国の地域的特色を「自然環境」「人口」「地域間の結びつき」「生活文化」「資源・産業」の五つの面から考察し、わが国がかかえる社会的課題を理解する。 ・世界的視野からみた日本の地域的特色と日本全体の視野からみた諸地域の特色を考察する。 <p>（歴史的分野）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中世から近世までの大きな時代の流れを捉えさせ、それぞれの時代の特色を多面的・多角的にとらえることができる力を培う。 ・各時代の歴史的事象を説明することができ、その際適切に資料が活用できる力を身に付ける。 ・特に近世から近代の日本の歴史を、世界の歴史的变化と並行し、連動して捉えることができる柔軟性を養う。 ・歴史的事象の中から、地理的な内容とも関連させながら課題を設けて調べることができる力を養う。またその課題を解決できる力を身に付ける。 		
定期考査	出題方針	授業で学習した内容、使用している副教材の内容から出題する。資料を用いて考え、自分の言葉で表現する力を多く問う。	
	(予定)	第1回考査	・中世の日本② ・近世の日本①
		第2回考査	・近世の日本① ・日本の地域的特色①
		第3回考査	・近世の日本② ・日本の地域的特色②
		第4回考査	・日本の諸地域① ・近代の日本と世界①
学年末考査	・日本の諸地域② ・近代の日本と世界②		
評価の観点・評価の方法	<p>①知識・技能 ②思考・判断・表現</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度</p> <p>上記3項目について、授業への取組（ノート・発表等）、自主学习、レポート、単元テスト、定期考査の結果で総合的に評価する。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	様々な出来事や課題を図や資料、グラフなどから考え、理解していく力をつけていきましょう。また、知識の定着だけではなく、自分の言葉で説明できる力や問題に何度も挑戦する力をつけていきましょう。		

年間授業計画表 (45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	中世の日本② (室町時代)	14	<ul style="list-style-type: none"> ・戦国の動乱 ※ここまでの世界史の流れをとらえる ・世界の歴史のできごとを日本の歴史と対比させ、世界の中での日本が説明できるようにする。
	5	近世の日本① *世界史内容の補足	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ人來航の背景とその影響 ・織豊政権と統一事業、対外関係 ・イスラム世界と文化 ※ここまでの世界史の流れをとらえる ・世界の歴史のできごとを日本の歴史と対比させ、世界の中での日本が説明できるようにする。
		《第1回考査》 (ii) 日本の様々な地域 ア 日本の地域構成	14	<ul style="list-style-type: none"> ・地形 ・気候 ・災害 ・自然環境 ・人口 ・資源とエネルギーおよび産業 ・林業・農業・漁業
	6	《第2回考査》	17	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ人の來航と日本への影響 ・江戸幕府の成立と大名統制 ・鎖国政策 ・江戸幕府の政治の特色 ・元禄文化・化政文化 ・新しい学問や思想の動き
	7	近世の日本②		
	9	イ 世界と比べた日本の地域的特色	15	<ul style="list-style-type: none"> ・地形図 ・工業とその変化 ・商業・サービス業 ・交通網・通信網 ・さまざまな地域区分
後期	10	ウ 日本の諸地域① 《第3回考査》	14	<ul style="list-style-type: none"> ・九州・中国・四国・近畿 ※地域的な特色ある地理的事象と事柄を他の事象と結びつけて追究する。
	11	近代の日本と世界 *世界史内容の補足	21	<ul style="list-style-type: none"> ・絶対王政と市民革命 ※ここまでの世界史の流れをとらえる ・世界の歴史のできごとを日本の歴史のと対比させ、世界の中での日本が説明できるようにする。
	12	《第4回考査》	12	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米諸国の接近と幕府の政治改革 ・産業革命 ・アジアの動き ・幕府政治の行き詰まり ・開国から大政奉還まで ※ここまでの世界史の流れをとらえる ・18世紀から19世紀の世界の変化を日本の歴史と対比させ、世界の中での日本が説明できるようにする。 ・明治維新の改革 ・文明開化
	1	ウ 日本の諸地域②	9	<ul style="list-style-type: none"> ・中部・関東・東北・北海道 ※地域的な特色ある地理的事象と事柄を他の事象と結びつけて追求する。
	2	《年度末考査》 エ 身近な地域の調査	10	<ul style="list-style-type: none"> ・地形図・野外観察 ・調査・地域の課題を考察 ・まとめと発表
	3	適切な課題を設定する学習		
総時間数			136	

教科名	年間授業時数	学年
数学	195	2
授業形態	指導者名	
習熟度別による少人数授業	血海和義、岡田紘典、板野正幸	

教科書(発行所)	新しい数学2	(東京書籍)
教科書以外の教材(発行所)	体系数学2代数編 体系数学1・2幾何編 体系問題集数学2代数編 発展 完成ノート 体系問題集数学1・2幾何編 発展 完成ノート	(数研出版) (数研出版) (数研出版) (数研出版)

目 標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数理化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>(3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。</p>		
学習のねらい	<p>1 「数と式」領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字を用いた多項式について、式の展開や因数分解ができるようにするとともに目的に応じて式を変形したりその意味を読み取ったりする能力を伸ばす。 正の数の平方根について理解し、それを用いて表現し考察することができるようにする。 2次方程式について理解し、それを用いて考察することができるようにする。 <p>2 「図形」領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 観察、操作や実験などの活動を通して、基本的な平面図形の性質を見いだし理解し、それを用いて考察することができるようにする。 図形の性質を三角形の合同条件などを基にして確かめ、論理的に考察し表現する能力を伸ばす。 図形の性質を三角形の相似条件を基にして確かめ、論理的に考察し表現する能力を伸ばす。 <p>3 「関数」領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、関数 $y = ax^2$ について理解するとともに、関数関係を見いだし表現し考察する能力を伸ばす。 <p>4 「資料の活用」領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて資料を収集し、表やグラフに整理し、代表値や資料の散らばりに着目して、その資料の傾向を読み取ることができるようにする。 不確定な事象についての観察や実験などの活動を通して、確率について理解しそれを用いて考察し表現することができるようにする。 母集団から標本を取り出し、標本の傾向を調べることで、母集団の傾向が読み取れることを理解できるようにする。 		
定期考査	出題方針	教科書の内容、問題集を中心に出题する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	図形と合同
		第2回考査	三角形と四角形
		第3回考査	式の計算、平方根
		第4回考査	2次方程式、関数 $y = ax^2$
年度末考査		確率と標本調査、図形と相似	
評価の観点・評価の方法	<p>評価の観点は「知識・理解」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3項目とする。</p> <p>具体的な評価は、定期考査、授業への取り組み、章末テスト、小テスト、提出物の状況等から総合的に行う。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	<p>予習については、教科書の内容をあらかじめ見ておくだけでも違います。予習をして授業に臨むようにしましょう。復習については、問題集を中心にその日に習った内容の問題をできるだけたくさん解いて自分のものにしていきましょう。授業には、しっかり集中して臨み、わからないことはその場で先生に質問するか、休み時間・放課後等を利用して質問にすることで、その日のうちに理解するように心がけましょう。授業ノートや授業プリントについては、黒板を写すだけでなく、自分で気づいたことや先生が説明した内容で重要だと思ったことは自分の言葉でしっかりと書き込んでおいて、後から確認して分かりやすいように工夫してみましょう。</p>		

年間授業計画表(45分授業)

期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	平行線と角	4	<ul style="list-style-type: none"> ・対頂角の性質、平行線と角の関係について理解し、それらを利用して問題を解決することができるようにする。 ・三角形の内角と外角をもとに多角形の角について理解し、問題の解決に利用することができるようにする。 ・合同な図形の性質、三角形の合同条件などを明らかにし、三角形の合同を根拠とした証明を行うことができるようにする。
		多角形の内角と外角 三角形の合同条件 証明のすすめ方 章末問題	7 7 7 3	
	5	《第1回考査》	6	
		二等辺三角形	4	
		直角三角形の合同	4	
		三角形の辺と角の大小	7	
	6	平行四辺形	4	
		平行線と面積 章末問題	4 3	
	7	多項式の計算	8	
《第2回考査》		6		
因数分解		4		
8	式の計算の利用	4		
	素因数分解	2		
	章末問題	4		
	平方根	5		
9	根号を含む式の計算	8		
	有理数と無理数	2		
後期	10	章末問題	4	
		《第3回考査》	8	
	11	2次方程式の解き方	5	
		2次方程式の応用	3	
		章末問題	3	
	12	関数 $y = ax^2$	3	
		関数 $y = ax^2$ のグラフ	6	
		関数 $y = ax^2$ の値の変化	4	
		関数 $y = ax^2$ の応用	5	
	1	いろいろな関数	4	
		章末問題	3	
	2	データの代表値	3	
データの散らばりと四分位範囲		3		
	《第4回考査》	5		
3	場合の数	7		
	確率の計算	4		
	標本調査	3		
	章末問題	3		
3	相似な図形	4		
	三角形の相似条件	4		
	平行線と線分の比	5		
3	中点連結定理	4		
	相似な図形の面積比、体積比	5		
	《年度末考査》	3		
	章末問題	3		
	2年生のまとめ	5		
総時間数			195	

教科名		年間授業時数	学年
理科		156	2
授業形態		指導者名	
一斉授業		武下 晃慎	

教科書(発行所)	未来へひろがるサイエンス 2 (啓林館)
教科書以外の教材(発行所)	中学実力練成テキスト 2年

目 標	<p>自然の事物・現象にかかわり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のように育成する。</p> <p>(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。</p>		
学習のねらい	<p>[生命] 生物の体は細胞から成り立つことを理解させ、それを土台に動物の体のつくりとはたらき、その種類と生活についての知識を深めるとともに、生命の精妙さについて実感させることがねらいである。また、この中で生命尊重の態度も育てたい。</p> <p>[地球] 身近な気象に進んでかかわり、空気中の水の凝結に関する実験や、気象観測などを雲画像などを活用して分析・解釈することを通じて、天気の変化が起こるしくみと規則性をともに、日本の四季の天気変化についても、その特徴を科学的に理解させる。</p> <p>[物質] 化学変化における物質の変化や量的な関係を、実験を通して探究させるとともに、それらの現象を原子・分子のモデルを用いて微視的に考えることができるようにさせる。また、多様な実験操作を経験させるよい機会であるので、安全かつ正確に化学実験を行う技能を身につけさせる。</p> <p>[エネルギー] 日常生活との関連をはかりながら、電流と回路や静電気、電流の磁気作用などの実験を通して、電流の性質や正体、電流のはたらきについて理解させる。</p>		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	「生命」生物の体のつくりとはたらき (問題集、実験・観察)
		第2回考査	「生命」動物の行動のしくみ 「物質」物質の成り立ちと表し方 (問題集、実験・観察)
		第3回考査	「物質」化学変化と物質の質量 「エネルギー」電流の性質 (問題集、実験・観察)
		第4回考査	「エネルギー」電流と磁界、放射線 (問題集、実験・観察)
学年末考査		「地球」地球の大気と天気の変化 (問題集、実験・観察)	
評価の観点・ 評価の方法	<p>○評価の観点は、自然事象への理解と科学的に探求するための技能、科学的に探求するために必要な思考・判断・表現、主体的に自然の事象に関わる態度の3項目とする。</p> <p>○評価の方法は、学習のまとまりごとの記述内容と定期考査、授業への取り組みのようす、課題の提出などをもとに、総合的に行う。また、自己評価も必要に応じて取り入れる。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートを取り方など)	<p>理科の学習は、自然の現象について学んでいく学問です。日常生活で身のまわりのことに対して、「なぜだろう」と考えながら注意して観ること、自分の意見を積極的に述べたり、友だちの意見にも耳を傾けながら現象について考えたりすることが必要です。</p> <p>また、実験・観察を通して得られたことを図やグラフを書いて事実合うように考察し発表する態度を身につけることも大切です。</p>		

年間授業計画表

期	月	学習内容	時数	学習のポイント	
前期	4	「生命」生物の体のつくりとはたらき 単元導入、学ぶ前にトライ！ 1章 生物の体をつくるもの	(43) 1 7	○生物の組織などの観察を行い、生物の体が細胞からできていることや植物と動物の細胞のつくりの特徴を理解する。 ○植物の葉や茎、根のつくりについての観察を行い、それらのつくりと、光合成、呼吸、蒸散のはたらきに関する実験の結果と関連づけて理解する。 ○消化や呼吸、血液の循環についての観察・実験を行い、動物の体が必要な物質を取り入れ運搬しているしくみを観察・実験の結果と関連づけて理解する。また、不要となった物質を排出するしくみがあることを理解する。 ○動物が外界の刺激に適切に反応している様子の観察を行い、そのしくみを感覚器官、神経および運動器官のつくりと関連づけて理解する。	
	5	2章 植物の体のつくりとはたらき	12		
	6	3章 動物の体のつくりとはたらき 4章 動物の行動のしくみ 力だめし、学んだ後にリトライ！ 細胞内のリサイクル機能	14 8 1		
	7	「物質」化学変化と原子・分子 単元導入、学ぶ前にトライ！ 1章 物質の成り立ち 2章 物質の表し方 3章 さまざまな化学変化	(39) 1 12 6 11		
後期	8	4章 化学変化と物質の質量 力だめし、学んだ後にリトライ！ 科学で宝石を生み出す ※物質の結合	8 1	○原子や分子は元素記号で表すことができることから、分子を化学式で示すことができるようになる。 ○2種類の物質が反応して結びつく実験を行い、反応前とは異なる物質が生成することを見いだす。また、さまざまな化学変化を原子や分子のモデルを用いて説明できるようになり、さらに化学反応式で表すことができるようになる。化学変化の学習では、酸化と還元が同時に起きていることを見だし、それらが日常生活にも多く利用されていることに気づく。また、化学変化に伴う熱の出入りについても認識する。 ○化学変化に関する物質の質量を測定する実験を行い、化学変化の前後では物質の質量の総和が等しいこと、および反応する物質の質量の間には一定の関係があることを見いだす。その際、実験で得られた結果をグラフ化するなど、実験結果の処理についての技能も習得する。	
	9	10	11		
	11	「エネルギー」電流の性質とその利用 単元導入、学ぶ前にトライ！ 1章 電流の性質 2章 電流の正体 3章 電流と磁界 力だめし、学んだ後にリトライ！ 電力を“伝送”する ※キルヒホッフの法則 ※静電誘導と誘導誘導分極	(44) 1 2 9 11 1		○回路の基本的な性質や、電圧と電流との関係について規則性を見いだすとともに、実験機器の操作や実験結果の処理についての技能を習得する。 ○日常生活と関連づけながら静電気の性質について調べ、静電気と電流には関係があることを見だし、真空放電の実験から、電流の正体について理解する。 ○日常生活と関連づけながら、電流の磁気作用や電流と磁界との相互作用を理解させ、直流と交流の違いを捉える。
	12	1	2		
1	2	3			
2	3	1			
			156		

教科名	年間授業時数	学年
音楽	39	2
授業形態	指導者名	
前期:一斉授業 後期:一斉授業	長岡佐和	

教科書(発行所)	中学生の音楽2・3上 (教育芸術社) 中学生の器楽 (教育芸術社)
教科書以外の教材(発行所)	音楽のハーモニー2・3上(正進社)

目標	音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を養う。		
学習のねらい	<p>1 歌唱 曲にふさわしい歌唱表現を工夫する。曲種に応じた発声により、美しい言葉の表現を工夫して歌う。</p> <p>2 器楽 楽器の特徴を生かし、曲にふさわしい音色や奏法を工夫し表現する。 全体の響きに調和させて演奏する。</p> <p>3 創作 楽器の特徴を生かした旋律を作り、表現する。 表現したいイメージや曲想を持ち、自由な発想による創作表現をする。</p> <p>4 鑑賞 音と音との関わり合いや、速度や強弱の働きによって生み出される曲想の変化を感じ取る。音楽の背景となる文化・歴史や他の芸術との関わりも理解し聴く。</p>		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、音楽ノート、プリント等から出題します。	
	範囲(予定)	第1回考査	無し
		第2回考査	フーガ短調、夏の思い出、サンタルチア、リコーダーの奏法 等
		第3回考査	無し
		第4回考査	無し
学年末考査	交響曲第 5 番、アイーダ、勸進帳、日本の音楽、世界の音楽、荒城の月 等		
評価の観点・評価の方法	<p>・評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の 3 観点とします。</p> <p>・具体的な評価は、普段の授業への取り組み(授業態度、授業プリントや音楽ノートの提出状況やそれらの記述内容、創作活動での作品やその過程での取り組み方 等)、定期考査、実技テスト(リコーダー)から総合的に行います。</p>		
先生からアドバイス	<p>・みなさんの身の回りには、たくさんの音や音楽であふれています。まずは、聞こえてくる音に耳を傾けてみましょう。そして、心地が良いな、心が動かされるなど感じる音や音楽を見つけてみてください。</p> <p>・音楽の世界はととても広く、そして奥が深いです。様々な音楽に興味を持つこと、また、「音楽のしくみ」を知ることで、音楽とより楽しく、より豊かに関わるすることができます。音楽の授業にも、興味関心をもって、積極的に取り組んでみましょう。</p> <p>・音楽の授業は週 1 回です。1 回 1 回の授業を大切にするためにも、準備物を忘れないようにしましょう。提出物も確実に出しましょう。</p>		

年間授業計画表(45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	音の重なり方や反復、変化を理解して、創作表現を工夫しよう ・Let's Create!	3	・構成を工夫して、言葉によるリズムアンサンブルをつくろう。
	5	曲想と音楽の構造との関わりを理解して、その魅力を味わおう ・フーガ短調 など	4	・旋律が重なり合っていくおもしろさを味わおう。
	6	曲想と歌詞の内容との関わりを理解して、歌唱表現を工夫しよう ・夏の思い出 ・サンタルチア ＜第2回考査＞	4	・情景を思い浮かべながら、言葉を大切にしておおう。 ・曲想を生かして表情豊かに歌おう。
	7	「カノン」をつくろう	4	・「音の重なり方」に着目して旋律をつくろう。
	9	曲想と音楽の構造との関わりを理解して、その魅力を味わおう ・交響曲第5番	4	・曲の構成に注目しながら曲想の変化を味わおう。
	5 ～ 3	リコーダーに親しもう *この題材は練習曲を継続して行う。		アルトリコーダーの基本的な奏法を身につけ正しいリズムと音程で簡単な楽曲を演奏する。
後期	10	オペラと歌舞伎に親しみ、それぞれの魅力を味わおう ・「アイダ」より ・歌舞伎「勸進帳」	4	・オペラ、歌舞伎に親しみ、その音楽を味わおう。
	11	曲想と歌詞の内容との関わりを理解して、表現を工夫しよう ・「荒城の月」	2	・歌詞と旋律が生み出す雰囲気を味わいながら歌おう。
	12	言葉の抑揚を生かして、創作表現を工夫しよう ・My Melody	4	・言葉の抑揚を生かして表情豊かに歌おう。
		日本の郷土芸能や伝統音楽の特徴を理解して、その魅力を味わおう ・受け継ごう 郷土の祭りや技能	2	・日本の郷土芸能に親しみ、その音楽の特徴を味わおう。
		世界の様々な音楽の特徴を理解して、その魅力を味わおう ・世界の諸民族の音楽	2	・諸外国の様々な音楽の特徴とその特徴から生まれる多様性を理解し、音楽表現の共通性や固有性について考えて聴く。
	1 2 3	仲間とともに、表情豊かに歌おう (卒業式に向けて) ＜学年末考査＞	6	・歌詞のメッセージを読み取り、全体の響きに調和させて合唱する。
	総時間数	39		

教科名	年間授業時数	学年
美術	39	2
授業形態	指導者名	
一斉授業	森 邦生	

教科書（発行所）	美術2・3上 学びの探求と未来 美術2・3下 学びの実感と広がり （日本文教出版）
教科書以外の教材（発行所）	美術資料（秀学社）

目 標	描く活動とつくる活動を通して、形や色をさらに追求し、創造的な工夫、調和した美しさを考えながら個性豊かな表現をおこなう。 また鑑賞と表現の能力を相互に高め、主体的に美術文化に対する見方や感じ方を深める。		
学習のねらい	<p>1 絵画・彫刻などの活動を通して 対象を深く見つめ観察し、想像や感情など心の世界をスケッチし、形づくることを学ぶ。また形や色彩、光などが感情にもたらず性質を考え、より創造的に工夫した表現を行う。</p> <p>2 デザイン・工芸などの活動を通して 表現したり伝えたい内容を、用途やデザインの効果を考え、創造的な構成を工夫して表現する。また制作過程を順序立て、見通しを持って進める。</p> <p>3 鑑賞 日本及び諸外国の美術遺産を鑑賞し、その特質や文化や伝統などについての理解や見方を広げ、美術を通じた国際理解を深め、表現活動に反映させる。</p>		
定期考査	出題方針	授業で制作したことや説明した内容、教科書・美術資料・プリントなどから出題する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	なし
		第2回考査	鉛筆の技法、水墨画、色の働き
		第3回考査	なし
		第4回考査	なし
	学年末考査	ピクトグラム、和菓子（粘土制作）、遠近法、実技	
評価の観点・ 評価の方法	<p>○評価の観点は、造形的な知識及び技能の習得、創造的な思考・判断・表現の能力、創作活動に主体的に取り組む態度の3項目とする。</p> <p>○準備物や授業での態度・真剣に創意工夫しようとする姿勢・見通しを持った創作活動など制作過程での観点別達成度、作品の出来映え、感想文による鑑賞能力の3つのポイントを統合して評価する。</p>		

<p>先生からアドバイ ス (予習・復習・授業の 受け方など)</p>	<p>皆さんは昨年よりも観察眼や表現力が一段と増えています。今年度は昨年学んだことを応用して新しい題材や画材に挑戦します。楽しみながら表現の幅を広げていきましょう。そうした創作活動の中で自分の個性をより強く感じながら、同時に他の違った個性を感じ認めることにつながっていくでしょう。</p> <p>美術（音楽・文学も）の世界は経済活動や効率主義とは全く違った価値観からできています。感性や創造力（想像力）、表現力の発現の場です。「自分らしく表現」しながら、「より効果的な表現」を目指しましょう。それが美術以外の「自分を取り巻く物事を見る視点」にも活かせるはずです。</p>
---	---

年間授業計画表 (45分授業)					
学期	月	学習内容	時数	学習のポイント	
前期	4	<p>「立体感と空間をとらえて」(絵画)</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近なものをモチーフにし、光と陰影の効果やモチーフ同士の関係をとらえて鉛筆デッサンする。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 鉛筆による陰影の表現の仕方や、物の形のとらえ方を学び、描画材の特性を工夫して表す。 複数のモチーフの質感、相互の位置関係をつかんで空間を表現する。 	
	5	<p>「墨が生み出す豊かな世界」(絵画・鑑賞)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水の量や筆の動かし方、基本的な水墨画の技法を練習し、独自の作品を制作する。 	5	<ul style="list-style-type: none"> 水墨画の作品を鑑賞の仕方を学び親しむ。 墨と筆の特性を実践を通して理解する。 自然や身の回りのものを、墨と筆の特性を生かして表現する。 	
	6	<p>「色について理解を深めよう」(デザイン)</p> <ul style="list-style-type: none"> 色の属性、トーンの種類と配色、主調色、強調調色などについて実践しながら学ぶ。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 色の属性、その組み合わせと効果を理解し、配置・面積によって感じ方が変化することを学ぶ。 様々な実践を通して、色を使いこなす基礎を学ぶ。 	
	7	《第2回考査》			
	8	<p>「情報をわかりやすく伝えよう」 (デザイン・鑑賞)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活で使われているマークやピクトグラムの役割や・意味、デザインの工夫などについて学ぶ。 校内の掲示を想定したピクトグラムをデザインする。 	6	<ul style="list-style-type: none"> 身近なマークなどのデザインに目をむけ、日常生活におけるデザインの役割と大切さを知る。 伝えたい内容が、見る人に分かりやすく簡潔に伝わるよう構想する。 形の簡略化の方法を学び、また色によって効果的に表せるよう工夫する。 	
	9	<p>「季節を感じる和菓子をつくろう」(彫塑)</p>		<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統的な和菓子について学ぶ。 季節や風物からテーマを生み出してデザインす 	

後 期	10	<ul style="list-style-type: none"> ・和菓子を季節をテーマに構想し、樹脂粘土で制作する。 ・出来た作品を相互に鑑賞する。 	7	<ul style="list-style-type: none"> ・樹脂粘土を生かして表現を工夫する。 ・制作の段取りと素材の特性を考え合わせ、見通しを持って制作する。
	11			
	12	<p>「私の理想の空間」(デザイン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な遠近法とその違いを学ぶ。 ・自分にとって理想の空間をデザインし、遠近法を用いて表現する。 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な種類の遠近法を知り、それぞれの空間表現の違いや良さを理解する。 ・一点透視図法、二点透視図法を実践する。 ・自分の理想の空間を創造して画面構成し、遠近法を応用して表現する。
	1	《学年末考査》		
	2	<p>「身近な素材でART」(デザイン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって理想の空間を、遠近法を用いて表現する。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にあるものを見つめ、形の美しさや面白さを発見し、構図を考えて撮影する。 ・写真をもとに模様を作ったり、模様を利用して生活の中のデザインに展開する。
	3	<p>「イラストレーション入門」(デザイン)</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストレーターの仕事について知り、描き方のコツを実践を通して学ぶ。
		総時間数	39	

教化名	年間授業時数	学年
保健体育	保健 17 時間 体育 100 時間 計 117 時間	2
授業形態	指導者名	
2クラス合同・1クラス単独・3学年合同（縦割り）	内藤 貴子・鈴木 浩司	

教科書(発行所)	保健体育 (大修館)
教科書以外の教材(発行所)	体育実技書 (学研)

<p>目標</p> <p>学習のねらい</p>	<p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。</p> <p>《体育分野》</p> <p>1 体づくり運動 自己の体力や生活に応じて、どのような運動をすればいいかを工夫する。 ①自己の体に気付く ②自己の体の調子を整える ③仲間と交流する</p> <p>2 器械運動 自己の能力に応じて、各運動種目の「技がよりよくできる」ことをねらいとし、自己の能力に適した技に挑み、その課題を解決していくことで喜びを味わう。</p> <p>3 陸上競技 速く走る・速くへ(高く)跳ぶ・速くへ投げることをねらいとし、自己記録の向上の喜びや仲間と競争する楽しさを味わう。</p> <p>4 球技 集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、得点を取り合って勝敗を競うことをねらいとし、攻防の作戦を立てて、勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わう。</p> <p>5 武道 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、その技能を身につけ、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができるようにする。</p> <p>6 ダンス 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、感じを込めて踊ったり、みんなで楽しく踊ったりすることができるようにする。</p> <p>7 体育に関する知識 各種の運動の特性に応じた学び方や安全の確保の仕方について理解するとともに、自己の生活の中での生かし方を理解する体ほぐしの意義と行い方及び体力の意義と体力の高め方について理解する。また、運動の心身にわたる効果について理解する。</p> <p>《保健分野》</p> <p>1 運動やスポーツの効果・学び方・安全 (1) 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について理解すること。 (ア) 運動やスポーツは、身体の発達やその機能の維持、体力の向上などの効果や自信の獲得、ストレスの解消などの心理的効果及びルールやマナーについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待できること。 (イ) 運動やスポーツには、特有の技術があり、その学び方には、運動の課題を合理</p>
-------------------------	--

	<p>的に解決するための一定の方法があること。</p> <p>(ウ)運動やスポーツを行う際は、その特性や目的、発達の段階や体調などを踏まえて運動を選ぶなど、健康・安全に留意する必要があること。</p> <p>(2)運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えること。</p> <p>(3)運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての学習に積極的に取り組むこと。</p> <p>2 生活習慣の健康への影響</p> <p>(1)健康な生活と疾病の予防について理解を深めること。</p> <p>(ア)生活習慣病などは、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れが主な要因となって起こること。また、生活習慣病の多くは、適切な運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践することによって予防できること。</p> <p>(イ)喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。また、これらの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があること。</p> <p>3 けがの防止と応急手当</p> <p>(1)傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすること。</p> <p>(ア)交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生すること。</p> <p>(イ)交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。</p> <p>(ウ)自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。</p> <p>(エ)応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、心肺蘇生法などを行うこと。</p> <p>(2)傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。</p>														
<p>定期考査</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="475 1193 646 1232">出題方針</td> <td colspan="2" data-bbox="646 1193 1428 1232">・教科書の内容を中心に、資料集・教材プリントなどから出題する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="475 1232 646 1411" rowspan="5">範囲 (予定)</td> <td data-bbox="646 1232 853 1265">第1回考査</td> <td data-bbox="853 1232 1428 1265">なし</td> </tr> <tr> <td data-bbox="646 1265 853 1299">第2回考査</td> <td data-bbox="853 1265 1428 1299">体づくり運動・陸上競技・球技・保健など</td> </tr> <tr> <td data-bbox="646 1299 853 1332">第3回考査</td> <td data-bbox="853 1299 1428 1332">なし</td> </tr> <tr> <td data-bbox="646 1332 853 1366">第4回考査</td> <td data-bbox="853 1332 1428 1366">なし</td> </tr> <tr> <td data-bbox="646 1366 853 1411">学年末考査</td> <td data-bbox="853 1366 1428 1411">陸上競技・球技・ダンス・保健 など</td> </tr> </table>	出題方針	・教科書の内容を中心に、資料集・教材プリントなどから出題する。		範囲 (予定)	第1回考査	なし	第2回考査	体づくり運動・陸上競技・球技・保健など	第3回考査	なし	第4回考査	なし	学年末考査	陸上競技・球技・ダンス・保健 など
出題方針	・教科書の内容を中心に、資料集・教材プリントなどから出題する。														
範囲 (予定)	第1回考査	なし													
	第2回考査	体づくり運動・陸上競技・球技・保健など													
	第3回考査	なし													
	第4回考査	なし													
	学年末考査	陸上競技・球技・ダンス・保健 など													
<p>評価の観点 ・評価の方法</p>	<p>・評価の観点は、①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度、の3項目とする。</p> <p>《体育分野》</p> <p>・評価の方法は、自己評価・相互評価・レポート提出・運動技能テスト・出席状況等により、総合的に寒天別に評価する。</p> <p>・毎時間が評価の対象であり、数回の技能テストも行う。</p> <p>《保健分野》</p> <p>・評価の方法は、定期考査、ノート提出、レポート提出、出席状況等により、総合的に観点別に評価する。</p>														
<p>先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、 ノートの取り方など)</p>	<p>《体育分野》</p> <p>・更衣を早くし、授業には遅刻しない。</p> <p>・体調の自己管理をし、体調の悪いときには担当教師に申し出る。</p> <p>・忘れ物をしない。</p> <p>《保健分野》</p> <p>・提出物は必ず出す</p> <p>レポート・ノート等の点数の配点は、大きいので気をつける。</p> <p>・忘れ物をしない。</p>														

年間授業計画表（45分授業）

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	・体づくり運動(体ほぐしの運動)	6	・自己の体に気付き、仲間と交流する。
	5	・体づくり運動(体力を高める運動)	6	・互いに協力しながら、体力を高める。
	6	・陸上競技(短距離走・リレー)	12	・安全に留意し、基本技術を習得する。
		・運動やスポーツの効果・学び方・安全	4	・互いに協力しながら、手際よく測定できるようにする。
	7	・球技(男子:バスケットボール)	8	・運動について理解を深める。
		(女子:バドミントン)	8	・安全に留意し、互いに協力しながら、練習・ゲームを行う。
		《第2回考査》		
	8	・ダンス(フォークダンス)	6	・互いに協力しながら練習を行う。
				上級生と下級生の交流を深める。
	9	・球技(ハンドボール)	14	・安全に留意し、互いに協力しながら、練習を行う。
・球技(卓球)			・常に技術習得を意識しながら、練習を行う。	
・生活習慣の健康への影響		6	・安全に留意し、基本技術を習得する。 ・生活の中での生かし方を理解する。	
後期	10	・球技(卓球)	14	・安全に留意し、基本技術を習得する。
	11	・球技(ハンドボール)		・安全に留意し、互いに協力しながら、練習を行う。
	12	・けがの防止と応急手当	10	・常に技術習得を意識しながら、練習を行う。
				・生活の中での生かし方を理解する。
	1	・陸上競技(長距離走)	15	・自分の目標を立て、ペースを設定して安定したタイムで走ることを大きな目標とする。
		2	・球技(男子:ソフトボール)	16
3	(女子:ニュースポーツ)		・安全に留意し、互いに協力しながら、練習・ゲームを行う。	
		《学年末考査》		・常に技術習得を意識しながら、練習・ゲームを行う。 また、チーム内での役割分担を行う。
		総時間数	117	体育 98時間 保健 19時間

教科名	年間授業時数	学年
技術・家庭科（技術分野）	39	2
授業形態	指導者名	
一斉授業	木挽屋 菜摘	

教科書（発行所）	技術・家庭 技術分野（開隆堂）
教科書以外の教材（発行所）	技術・家庭ノート（開隆堂）

目 標	生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。		
学習のねらい	<p>B 生物育成の技術</p> <p>(1) 生活や社会を支える生物育成の技術について調べる活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 育成する生物の成長、生態の特性等の原理・法則と、育成環境の調節方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解すること。</p> <p>イ 技術に込められた問題解決の工夫について考えること。</p> <p>(2) 生活や社会における問題を、生物育成の技術によって解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 安全・適切な栽培又は飼育、検査等ができること。</p> <p>イ 問題を見いだして課題を設定し、育成環境の調節方法を構想して育成計画を立てるとともに、栽培又は飼育の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること。</p> <p>(3) これからの社会の発展と生物育成の技術の在り方を考える活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 生活や社会、環境との関わりを踏まえて、技術の概念を理解すること。</p> <p>イ 技術を評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考えること。</p> <p>D 情報の技術</p> <p>(1) 生活や社会を支える情報の技術について調べる活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 情報の表現、記録、計算、通信の特性等の原理・法則と、情報のデジタル化や処理の自動化、システム化、情報セキュリティ等に関わる基礎的な技術の仕組み及び情報モラルの必要性について理解すること。</p> <p>イ 技術に込められた問題解決の工夫について考えること。</p> <p>(2) 生活や社会における問題を、ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによって解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 情報通信ネットワークの構成と、情報を利用するための基本的な仕組みを理解し、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができること。</p> <p>イ 問題を見いだして課題を設定し、使用するメディアを複合する方法とその効果的な利用方法を構想して情報処理の手順を具体化するとともに、制作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること。</p> <p>(3) 生活や社会における問題を、計測・制御のプログラミングによって解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 計測・制御システムの仕組みを理解し、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができること。</p> <p>イ 問題を見いだして課題を設定し、入出力されるデータの流れを元に計測・制御システムを構想して情報処理の手順を具体化するとともに、制作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること。</p> <p>(4) これからの社会の発展と情報の技術の在り方を考える活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 生活や社会、環境との関わりを踏まえて、技術の概念を理解すること。</p> <p>イ 技術を評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考えること。</p>		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、ノート、授業内容、教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第1回考査	実施しない
		第2回考査	生物育成の技術 情報の技術 ・ マルチメディアの活用 ・ デジタル化の方法
		第3回考査	実施しない
		第4回考査	実施しない
学年末考査	情報の技術 ・ 情報とわたしたちの生活 ・ コンピュータと情報処理 ・ 情報通信ネットワークの利用 ・ ネットワークと情報セキュリティ		
評価の観点・ 評価の方法	<p>○評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3項目である。</p> <p>○具体的な評価は、定期考査、授業中での作品、「技術とわたしたちの生活 1技術」、「情報とわたしたちの生活 2情報」、教材プリント、レポートなどを適正に活用して総合的に行う。また必要に応じて自己評価も取り入れる。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	<p>技術は、実践的・体験的な学習活動を通して、生物育成や情報の基礎的な知識と技能を習得するとともに、生物育成や情報の学習を通して、将来の自分の夢を実現するときにいかされる技術的素養を身につける学習です。技術が果たす役割について理解を深め、それらを適切に活用する能力と態度を身につけることが大切です。学習を通して、将来の自分の夢を実現するときにいかされる技術的素養を身につけましょう。</p>		

年間授業計画表(45分授業)

学期	月	学習内容	時数	授業のポイント	
前期	4	○生物育成の技術 ●わたしたちの生活と生物育成 ・生物育成について知る。	5	・生物育成の意味とその目的、わたしたちの生活における役割を知る。 ・スプラウトの観察を通して、生物育成について知る。	
	5	・作物や家畜などの特性と生物育成技術を知る。 ・生物育成のサイクルを知る。 ●栽培計画 ・栽培ごよみを知る。・栽培計画を立てる。 ・播種、育苗について知る。 ・環境要因を知る。・育成の規則性と技術 ・土づくり、肥料について知る。 ・収穫の方法と保存について知る。	3	・作物の育成に適切な手入れのしかたを理解し、適切な管理ができる。・ベビーリーフの栽培を通して、生物育成について知る。 ・作物と地域による栽培時間のちがいを知り、栽培に見通しをもつ。 ・育成する生物の特性が技術と深くかかわっていることを知る。 ・わたしたちの生活に有効利用されている生物育成の技術の流れを知る。	
		○情報の技術 ●情報機器の変遷とその仕組み		・生物の育成に適する条件を理解する。 ・作物の特性と育成の規則性を理解する。 ・作物の収穫と利用方法を理解できる。 ・情報機器の発達と身の回りにある情報の技術を知る。 ・情報機器の変遷とその仕組みについて知る。	
	6	●デジタル作品の設計と製作	2	・生活の中で利用されている情報の表現手段や特徴を知る。	
	7	・生活の中のメディアを知る。	2	・マルチメディアを利用した製作の手順を知る。	
	9	・デジタル作品の設計 《第2回考査》	4	・デジタルの特徴と情報の保存方法を知る。 ・メディアの特徴を活用し、目的や条件を考えて、デジタル作品を制作する。 ・デジタル作品のプログラミングができる。 ・作品に対する適切な評価・修正ができる。	
	後期	10	●双方向性のあるコンテンツのプログラミング ●計測・制御のプログラミング	6	・双方向性のあるコンテンツのプログラミング、計測・制御のプログラミングができる。
		11	●情報とわたしたちの生活 ・情報の技術とその役割 ●コンピュータと情報処理 ・コンピュータの構成、情報を処理するしくみ	6 4 6	・作品に対する適切な評価・修正ができる。 ・計測・制御機器の発達と生活の変化について考える。 ・コンピュータ制御の機器が社会生活にもたらす影響について考える。 ・コンピュータを利用した情報の技術の利用例やはたらきを知る。 ・コンピュータを構成する要素の種類や役割を知る。
		12	・デジタル化の方法と情報の量	6	・コンピュータが情報を処理するしくみを知る。
		1		3	・デジタル化の方法、情報の量の表し方と保存方法を知る。
2		●情報通信ネットワークの利用 ・ネットワークの構成と情報を伝えるしくみ ・ネットワークの安全性とセキュリティ		・ネットワークの種類と構成を知り、情報を伝えるしくみを知る。 ・ネットワークの危険性、安全に情報を利用するしくみを知る。	
3		●情報モラルと知的財産 ・発信するときのモラル ・人権や個人情報の保護、知的財産の保護 《学年末考査》	2	・情報を扱うルールや相手の立場に立った情報発信のモラルを知る。 ・人権や個人情報を保護するためのルールを知る。 ・知的財産を保護する利用のしかたを知る。	
		総時間数	39		

教科名		年間授業時数	学年
技術・家庭科（家庭分野）		39	2
授業形態		指導者名	
前期：一斉授業 後期：一斉授業		小山有紀	

教科書（発行所）	技術・家庭 家庭分野（開隆堂）
教科書以外の教材（発行所）	中学校技術・家庭科用 技・家ノート 家庭分野（開隆堂）

目 標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や 環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と 協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする 実践的な態度を養う。</p>		
学 習 の ね ら い	<p>A 家族・家庭生活</p> <p>(3) 家族・家庭や地域との関わり</p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(ア) 家族の互いの立場や役割が分かり、協力することによって家族関係をよりよくできることについて理解すること。</p> <p>(イ) 家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解すること。</p> <p>イ 家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について考え、工夫すること。</p> <p>B 衣食住の生活(衣・住生活)</p> <p>(4) 衣服の選択と手入れ</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解すること。</p> <p>(イ) 衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し、適切にできること。</p> <p>イ 衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方を考え、工夫すること。</p> <p>(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作</p> <p>ア 製作する物に適した材料や縫い方について理解し、用具を安全に取り扱い、製作が適切にできること。</p> <p>イ 資源や環境に配慮し、生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫すること。</p> <p>(6) 住居の機能と安全な住まい方</p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(ア) 家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解すること。</p> <p>(イ) 家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解すること。</p> <p>イ 家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫すること。</p> <p>C 消費生活</p> <p>(1) 金銭の管理と購入</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解すること。</p> <p>(イ) 売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできること。</p> <p>イ 物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、工夫すること。</p> <p>(2) 消費者の権利と責任</p> <p>ア 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解すること。</p> <p>イ 身近な消費生活について、自立した消費者としての責任ある消費行動 を考え、工夫すること。</p>		
定期考査	出題方針	教科書とノートの内容を中心にプリント、ワークシートからも出題する。	
	範 囲 (予定)	第2回考査	・衣服の選択と手入れ ・生活を豊かにするための布を用いた製作
		学年末考査	・住居の機能と安全な住まい方 ・金銭の管理と購入 ・消費者の権利と責任
評価の観点・ 評価の方法	<p>・評価の観点は家庭科の「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3点とする。</p> <p>・授業への取り組み方、発表・プレゼン・レポート、ワークシートの記述等から総合的に評価する。</p>		
先生からのアドバイス (予習・復習の 方法、授業の受 け方、ノートの とり方など)	<p>・忘れ物をしない。・時間を守る。 ・人の話を集中して聞く。</p> <p>・課題をきちんと行い提出する。 ・学習内容を家庭で実践する。</p> <p>・自らの家庭生活を見つめ、家庭生活に対する課題や考えをもつ。</p>		

年間授業計画表(45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント	
前期	4	○目的に応じた衣服の選択 ①衣服で伝わるメッセージ ②自分らしくコーディネート ③つなげよう和服の文化	1 1 1	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の社会生活上のはたらきがわかる。 ・自分らしい着方を工夫することができる。 ・和服の文化に関心を持ち、和服の着方を知る。 ・自分の衣服計画が立てられる。 ・既製服を選ぶポイントがわかる。 	
	5	④上手な衣服の選択 ○日常着の手入れと保管 ①まかせて衣服の手入れ	1 1		
	6	②布の繊維に応じた手入れ	2		
		③めざそう洗濯名人 ④補修や収納・保管	1 1		
		○生活を豊かにするものの製作 ①製作の基礎・基本	2		
	〈第2回考査〉				
	7	②布による作品で生活を演出	6		・製作の計画を立て、手縫いやミシン縫いで生活を豊かにするものをつくる。
8 9					
後期	10	○生活を豊かにするものの製作 ②布による作品で生活を演出	2	・製作の計画を立て、手縫いやミシン縫いで生活を豊かにするものをつくる。	
	11	○住まいのはたらきとこちよさ ①住まいのはたらき ②住まいの空間	1 1	<ul style="list-style-type: none"> ・住まいの基本的な役割について理解する。 ・日本の伝統的な住まいの特徴を知る。 	
		○安全な住まいで安心な暮らし ①家庭内事故への備え	2	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭内の事故の種類と、その原因を知る。 ・幼児や高齢者の安全を考えた住まい方について工夫する 	
		②災害への備え	2	・地域さまざまな災害に備えて、室内を安全に整備する必要とその方法について理解する。	
	12	○持続可能な住生活 持続可能な住生活をめざして	3	・持続可能な社会の実現に向けて、さまざまな住まいと住まい方の工夫があることを知る。	
		○家庭生活と消費 ①消費生活のしくみ	1	<ul style="list-style-type: none"> ・物資とサービスの特徴がわかる。 ・消費生活のしくみがわかる。 	
		②家庭生活における収入と支出	1	・収支のバランスをはかり、計画的に金銭管理する必要があることがわかる。	
	1	○購入・支払いと生活 ①いろいろな購入方法 ②購入前に知っておくこと	1 1	<ul style="list-style-type: none"> ・店舗販売と無店舗販売の特徴がわかる。 ・売買契約について問題発生の原因や予防方法を含め、理解する。 	
		③いろいろな支払い方法	1	・即時払い、前払い、後払いの特徴を理解し、利点と問題点を理解する。	
		④情報を活用した上手な購入	1	・生活情報の収集や活用のしかたを理解し、目的に合った商品を選ぶことができる。	
2		○消費者被害と消費者の自立 ①なくならない消費者被害	1	・消費者被害の現状や背景について理解し、予防の方法がわかる。	
2	②消費者を支えるもの	1	・消費者を支えるしくみについて理解できる。		
	〈年度末考査〉				
	③消費者の権利と責任	1	・消費者の権利と責任について理解し、自立した消費者をめざす。		
	○自分の成長と家族・家庭生活 ③家庭を支える社会	1	・自分や家族の生活は家庭内や家庭外の活動が支えていることに気づく。		
	④中学生にとっての家族	1	・家族には互いの立場や役割があり、協力することで家族関係をよりよくできることを理解する。		
総時間数			39		

教科名		年間授業時数	学年
英語（英語・英語C）		195	2
授業形態		指導者名	
習熟度別による少人数授業および一斉授業		Proebstle Andrew Michael, 高木由貴、Lucian Glenny	

教科書（発行所）	NEW HORIZON English Course2（東京書籍）
教科書以外の教材（発行所）	<ul style="list-style-type: none"> ・実力練成テキスト2（文理） ・中高一貫テキストNEW TREASURE Stage1・2（Z会出版） ・NEW TREASURE 文法問題集1・2（Z会出版） ・クラウンチャンクで英単語 Basic（三省堂） ・Upgrade listening（文理）

目 標	外国語（英語）によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やりとり）（発表）」、「書くこと」の言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・言語の4技能5領域（「聞くこと」「話すこと（やりとり）（発表）」「読むこと」「書くこと」）をバランスよく学習する。 ・200語程度のまとまった英語を聞いて、その内容を理解することができる。 ・質問・応答・交渉・言い換え・論理的な自己表現などができる。 ・300語程度のまとまった英語を読んで、その内容を理解することができる。 ・基本的な文法・語いを使って、200語程度のまとまった英語を書くことができる。 		
定期考査	出題方針	中高一貫テキストNEW TREASURE の内容を中心に、検定教科書にも触れながら、副教材、問題集、教材プリントなどから出題する。 Listening Comprehension は必ず行う方針である。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	中高一貫テキストStage1 Lesson10、11 検定教科書内容
		第2回考査	中高一貫テキストStage1 Lesson12、Stage2 Lesson1 検定教科書内容
		第3回考査	中高一貫テキストStage2 Lesson2 / Stage2 Lesson3 検定教科書内容
		第4回考査	中高一貫テキストStage2 Lesson4、 検定教科書内容
学年末考査	中高一貫テキストStage2 Lesson5 検定教科書内容		
評価の観点・ 評価の方法	評価の観点は、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3項目とする。 具体的な評価は、定期考査、授業ファイルの作成と提出、小テスト、その他の提出物を含む課題、授業への取り組み状況等を適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	<p>中学2年生では、習熟度別（希望による）少人数授業を展開します。標準コースではこれまでの学習と同様に、基礎・基本の定着を目指した演習や言語活動などを通して学習を進めていきます。発展コースではより細かな文法指導やその文法を駆使した様々な発展的な言語活動などを通して、言語使用場面に合わせて学習したことを実践的なものにまで高めていきます。</p> <p>どちらのコースにも共通して大切なことは、①予習②授業③復習のサイクルを確立することです。家庭学習には1時間以上はかけ、授業に集中して取り組むことが大切です。まず、①予習では、単語調べ、本文の内容理解をできる範囲でやってきましょう。予習の段階で疑問に思ったことは、授業で確認し、それでも不明な点は授業後に先生に確認しましょう。ファイルには赤で直しを入れましょう。②授業では言語活動をしているときは音を大切にしっかりと発音することです。五感をフル活用しましょう。また、積極的な挙手を期待します。一方、書く練習やまとめの作業では静かに書くことで整理します。活動の1つ1つにねらいを持ち、はじめをつけて学習しましょう。また、ペアなどによる学び合いの姿勢も大切に、お互いに高め合っていきましょう。その日学習したことは③必ず復習します。CDを聞いたり、音読したり、書く練習をするなどの努力を欠かさず行いましょう。この毎日の積み重ねが定着につながります。ALTの先生との授業においても積極的に学習したことをすぐに使うことが大切です。週5時間の英語の授業と毎日の家庭学習（1時間以上）をフル活用して身につけていきましょう。No Pain、No Gain。（努力なくして成功なし）一緒にがんばりましょう。</p>		

年間授業計画表(45分授業)

期	月	学習内容			時数	
前期	4	Unit 0 My Spring Vacation Unit 1 A trip to Singapore Unit 2 Food Travel around the World	<ul style="list-style-type: none"> 一般動詞の過去形, canの文 疑問詞 be going to 未来形 will 接続詞 SVOO, SVOC 	前学年の復習 Lesson 10 Let's drink and eat water bubbles Lesson 11 What can we do for the world?	<ul style="list-style-type: none"> 未来を表す表現 (be going to~) いろいろな助動詞 (will / can / may / must) There is (are) ~の文 数や量の多少を表す表現 	19
	5	《 第1回考査 》		《 第1回考査 》		19
	6	Unit 3 My Future Job Stage Activity 1 A Message to Myself in the Future	<ul style="list-style-type: none"> 不定詞(形容詞的用法、副詞的用法と副詞的用法) 好きなことや得意なことについて話し合い、自分に合うと思う仕事について書く 	Lesson 12 Languages in India Lesson 1 14-year-olds around the World	<ul style="list-style-type: none"> 比較 better, the best (原級・比較級・最上級) 命令文, and / or.... 接続詞 when 	19
		7	《 第2回考査 》		《 第2回考査 》	
		Let's Read 1 History of Clocks	<ul style="list-style-type: none"> 速読(説明文) 	復習		5
	8	《 サマーチャレンジ 前半 》 [夏季休業中] 《 サマーチャレンジ 後半 》				
	9	Unit 4 Homestay in the United States Unit 5 Universal Design	<ul style="list-style-type: none"> have to~/don't have to~ 助動詞 will/must/must not how to S+V sure that S+V 	Lesson 2 The impact of Non-Native Species	<ul style="list-style-type: none"> 接続詞 that 接続詞 if / 理由、譲歩を表す接続詞 	19
		10	Unit 6 Research Your Topic	<ul style="list-style-type: none"> 比較級 最上級 as~as... 	Lesson 3 The World Favorite Children's Author	<ul style="list-style-type: none"> 文構造 (SV/SVC/SVO)
	後期	11	《 第3回考査 》		《 第3回考査 》	
11		Stage Activity 2 Research and Presentation	<ul style="list-style-type: none"> クラスで人気のあるものを調べて、その結果を発表する 	Lesson 4 Takashi's Speech about the Sanshin	<ul style="list-style-type: none"> 不定詞 (名詞用法、副詞用法、形容詞用法) 	19
12		《 第4回考査 》		《 第4回考査 》		
1		[冬季休業中]				
期	1	Let's Read 2 A Glass of Milk Unit 7 World Heritage Sites	<ul style="list-style-type: none"> 速読(物語文) 受動態 	Lesson 5 Disney and Ghibli Fascinate the World	<ul style="list-style-type: none"> 動名詞 不定詞と動名詞 	19
	2	Stage Activity 3 My favorite Place in Our town	<ul style="list-style-type: none"> 自分の待ちのおすすめの場所について書き、相手にその場所の特徴や良い点を伝える 			19
	3	《 学年末考査 》		《 学年末考査 》		
		Let's Read 3 Pictures and Our Beautiful Planet	<ul style="list-style-type: none"> 私の好きなこと・もの 速読(伝記) 	Lesson 6 Forests in Sumatra	<ul style="list-style-type: none"> 受け身形 	19
	《 スプリングチャレンジ 》					
		総 時 間 数			195	

第2学年 道徳年間指導計画

学校の教育目標	科学的思考力と創造力を身に付け、21世紀の社会を各分野で主体的に担っていくことができる生徒の育成 幅広い知識と国際的な感覚を身に付け、国際社会で活躍できる知的バランスのとれた生徒の育成 豊かな人間性をもち、自分を律し他を尊重しながら個性を伸長する意欲ある生徒の育成	教科書 検定教科書「自分を考える」
学年の重点項目	自らのよさを伸ばすとともに他者の立場を尊重し、ともに高める態度を育てる。	

月	主題名	内容項目	資料名	ねらい
4	オリエンテーション		「道徳」の時間のオリエンテーション	道徳の時間について考え、意義と重要性を理解し今後の学習を通してよりよく生きていこうとする態度を育てる。
	自分を輝かせる	A-(3)	虎	虎の一役にかけて八幡の心の変化と、舞台後の涙のわけについて考えることを通して、自分らしさを発揮することのよさに気づき、個性を伸ばして充実した生き方を追求していこうとする道徳的実践意欲を培う。
	本当のコミュニケーション	B-(7)	いつでもどこでも誰とでも	レストランの出来事における「私」の問題とその解決について考えることを通して、礼儀の根底にある人間尊重の精神の大切さに気づき、時と場に応じた適切な言動で、他者愛する心を伝えていこうとする道徳的実践意欲を高める。
	自然の雄大さや悠久さ	D-(20)	樹齢七千年の杉	真丈杉を前に感動される筆者の思いを共感的に理解することを通して、人間の力を越え自然の雄大さや悠久さに気づき、畏れを抱きながら自然と向き合う道徳的心情を育む。
5	誠実に責任をもつ	A-(1)	ジョイス	誤審の翌日も球審を務めようとするジョイスに対する、ガラテアやタイガースの監督の心情を共感的に理解することを通して、誠実な生き方のよさに気づき、自律的な行為の結果に責任をもち、人間としての誇りを大切にする道徳的心情を育む。
	新しいものを生み出す	A-(5)	ガストロカメラ	多くの困難と失敗を乗り越えて、胃カメラという未知のアイデアを実現させた杉浦隆夫、宇治達朗らを支えていた思いについて考えることを通して、真実を大切に、真理を探究して新しいものを生み出していこうとする道徳的実践意欲を培う。
	相互理解の大切さ	B-(9)	野生の猛禽を守るために	一人のハンターとの出会いから、筆者が気付いたことについて考えることを通して、相互理解を図ることの大切さに気づき、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、他者のもの見方や考え方を学んでいこうとする道徳的実践意欲を育む。
	節度、節制	A-(2)	これは駄目？ これも駄目？	節度や節制に関わる具体的な例について、自分の判断の基準を見つめ、話し合うことを通して、節度を守り、節制に心がけて、心身ともに健康で安全な生活を送ろうとする道徳的実践意欲を高める。
6	生きることの意味	D-(19)	燃え盛る炎	難病に向き合い生き抜いた石川正一君の姿から、人が「生きる」ということについて考えることを通して、かけがえのない生命を尊び、限りある人生を懸命に生きていこうとする道徳的実践意欲を育む。
	いじめの醜さ	C-(11)	君、想像したことある？	いじめの卑劣さを訴える春名風花さんの主張を共感的に理解することを通して、いじめをする人間の醜さに気づき、自分の弱さに打ち勝つて、差別や偏見、いじめのない社会の実現に努める道徳的実践意欲を育む。
	高い目標に挑戦する生き方	A-(4)	「キング」と呼ばれる理由 ― 三浦 知良 ―	ワールドカップ出場を目指し、その夢が破れてもおさうかを続ける三浦知良選手の生き方について考えることを通して、高い目標に挑戦していくことの素晴らしさに気づき、困難や失敗に直面しても、希望や勇気を失わずに努力を続けていこうとする道徳的実践意欲を培う。
	感謝の心	B-(6)	ありガトオヨ	加藤たけしさん、橋本公男さん夫妻、加藤はつ江さんの心の交流から、感謝の心のよさや大切さについて考えることを通して、人間愛の精神を深め、人と人との支え合いを可能にする思いやりや感謝の心を大切に育てる道徳的実践意欲を育む。
7	身土に誇れる伝統や文化	C-(16)	相馬野馬追の季節	東日本大震災で大きな被害を受けながら、高藤を乗り越えて相馬野馬追を開催した相馬地方の人々の思いについて考えることを通して、郷土に受け継がれた伝統文化のよさや大切さに気づき、地域社会の一員として郷土の伝統と文化を大切にしていこうとする道徳的実践意欲を培う。
	自己を輝かせる集団	C-(15)	明かりの下の燭台	チームの勝利のために献身し、マネージャーに徹した鈴木恵美さんの生き方について考えることを通して、集団における自分の役割と責任を自覚し、集団生活の充実を努めていこうとする道徳的実践意欲を培う。
9	社会の規律を守る	C-(10)	私の銀蔵	「お天道様が見てござる」と借金を返そうとする人々の姿から、銀蔵が気付いたことについて考えることを通して、社会の規律を守ろうとする規範意識の大切さに気づき、自他の権利を大切に、義務を果たしていこうとする道徳的実践意欲を高める。
	真の友情	B-(8)	嵐のあとに	嵐の激を越えて、明夫とがっちり手を握り合う勇太の心の変化について考えることを通して、心から信頼し合うことの大切さに気づき、相互に変わらない信頼と相手に対する敬愛の念に基づく真の友情を育んでいこうとする道徳的実践意欲を培う。
	自らを律し、誠実に実行する	A-(1)	小さなこと	小さい自分のしつけを続けている筆者の生き方について考えることを通して、自らを律して誠実に実行していくことのよさや大切さに気づき、自らの規範意識を高め、自律的に生きていこうとする道徳的実践意欲を育む。
	人間の素晴らしさ	D-(22)	ネパールのビール	チェリが帰ってくるまでの筆者の心の動きを共感的に理解することを通して、人を信じ切ることのできない弱さとそれを乗り越えたいと願う気高さや人間としての誇りや深い人間愛を大切にして、生きる喜びを見出していこうとする道徳的実践意欲を育む。
10	仕事への誇り	C-(13)	加奈子の職場体験	カットを進める安田さんの背中を見つめる加奈子の思いについて考えることを通して、働くことの厳しさや仕事への誇りに気づき、勤労の尊厳や意義を理解して、自分の将来の生き方を考えていこうとする道徳的実践意欲を培う。
	家族の深い愛情	C-(14)	尊い玉子	「私の話を聞いた家の主人の思いについて考えることを通して、家族の無私な愛情の尊さに気づき、自らの健やかな成長と幸福を願う家族への感謝と敬愛の念を深める道徳的実践意欲を育む。
	人間の強さ、気高さへの感動	D-(21)	人間であることの美しさ	アンデルセン選手の姿に「人間だけが表現しうる美しさ」を感じた筆者の心情について考えることを通して、人間の強さ、気高さに感動する心に気づき、自らの感動を大切に育てる道徳的実践意欲を育む。
	社会の規範を守る	C-(10)	傘の下	自分の都合で他人の傘を持ち帰り、元に戻した村山聖さんの生き方について考えることを通して、公徳を重んじ、社会の規範を守ることの大切さに気づき、自他の権利を大切に、義務を果たして規律ある社会の実現に努める道徳的実践意欲を高める。
11	責任ある行動	A-(1)	お前のカワウソがさびしがっているぞ	父の言葉から筆者が気付いたことについて考えることを通して、責任ある行動の大切さに気づき、自主的によく考えて判断し、誠実に実行して、結果に責任をもつ道徳的実践意欲を高める。
	正義を重んじる心	C-(11)	路上に散った正義感	社説と投書者の意見から、よりよい社会の在り方について考えることを通して、社会生活における正義の大切さに気づき、正義と公正さを重んじ、不正を憎み、不正な行動を断固として許さない社会の実現に努める道徳的実践意欲を培う。
	生きるといふこと	D-(19)	天使の舞い降りた朝	母の最後のメッセージを受け止め、歌で生きていくと決めた「僕」の思いについて考えることを通して、「生きる」ということの多面性に気づき、限りある自分の人生を懸命に生きていこうとする道徳的実践意欲を培う。
	気高く生きようとする心	D-(22)	タッチアウト	自分の過失を隠したことについて、良心の呵責を感じ続ける「僕」の思いについて考えることを通して、人間のもつ気高く生きようとする心に気づき、自らの弱さや醜さを克服して、よりよく生きようとする道徳的実践意欲を育む。
12	思いやりの心	B-(6)	最後の年越しそば	最後の帰宅をやめて、お年寄りに年越しそばを振る舞う父の生き方について考えることを通して、思いやりの心の大切さに気づき、温かい人間愛の精神をもって、人と人との支え合いを大切に育てる道徳的実践意欲を育む。
	家族への敬愛	C-(14)	一冊のノート	ノートにつづられた祖母の思いを知り、祖母と並んで草取りをする「僕」の心の動きについて考えることを通して、家族を敬愛し、家庭の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築こうとする道徳的実践意欲を培う。
	人と国との関わり	C-(17)	国	二つの祖国をもつ王貞治さんの考えから、人と国との関わりについて考えることを通して、日本に生きる者としての自覚をもって、国家及び社会の形成者としてその発展を願う道徳的実践意欲を育む。
1	夢や目標に向かって	A-(4)	本物の将棋指し ― 村山 聖 ―	病を抱えながらも、将棋に一生を捧げた村山聖さんの生き方について考えることを通して、夢や目標に向かって生きていくことの大切さに気づき、困難や失敗を恐れず、自らの夢や目標に向かって努力していこうとする道徳的実践意欲を培う。
	ともに生きる社会	C-(12)	迷惑とは何ぞ	映画の登場人物の思いを共感的に理解し、筆者の主張について考えることを通して、社会連帯の大切さに気づき、社会に暮らす人々と互いに支え合い、ともによりよく生きていこうとする道徳的実践意欲を培う。
	信頼と敬愛の念	B-(8)	アイツとセントバレンタインデー	真と夏樹それぞれの行動について話し合い、二人のよりよい関係について考えることを通して、異性間においても相手と理解し合うことの大切さに気づき、信頼と敬愛の念をもってよりよい人間関係を築いていこうとする道徳的実践意欲を培う。
2	人間として誇れる生き方	D-(22)	足袋の季節	取り返しのつかない過ちを悔いる筆者の心情について考えることを通して、人間の弱さや醜さとそれを克服したいと願う心に気づき、自分に恥じない、人間として誇れる生き方を追求する道徳的実践意欲を培う。
	深い人類愛	C-(18)	最も悲しむべきことは、病めることでも貧しいことでもなく	病も人間らしい生活を送れるように尽力したマザー・テレサの生き方について考えることを通して、世界中の人々と協働し、互いに尊重し合いながら、国際平和と人類の幸福に寄与する道徳的実践意欲を培う。
	思いやりの温かさ	B-(6)	地図のある手紙	雪深い沼の原の墓地に一冊の手紙を配達し、墓前で代読する源さんの思いを共感的に理解することを通して、思いやりの心の温かさや、人と人をつなぐ思いやりの心を大切に育てる道徳的実践意欲を育む。
	命の選択	D-(19)	看取りの医者	延命治療を希望しない桑田さんと、彼を支えようとする筆者の思いについて考えることを通して、人間としての尊厳をもって生きていくことの大切さに気づき、生命の尊厳についての理解を基に、自己の生き方を考え続けていこうとする道徳的実践意欲を培う。
3	節度・節制	A-(2)	情報機器と私たちの生活を考える	情報のルールを遵守し、確実に義務を果たすことで、よりよい社会をつくらうとする道徳的実践意欲を培う。
	国際理解・国際貢献	C-(18)	持続可能な社会を考える	どの国の人々も同じ人間として尊重し、世界平和と人類の幸福に貢献しようとする道徳的実践意欲を育む。
	1年間のふり振り返り		この一年間の自分をふり振り返り今後を考える	

教科名		年間授業時数	学年
サイエンス		39	2
授業形態	指導者名		
分割授業（1学級を2講座）	奥野晃司 松末昌樹 武下晃慎 木挽屋菜摘		

目 標	<p>科学が社会生活において果たしている役割に目を向け、実験・観察・数学的活動を通じて、科学的に調べる能力と態度を育てる。さらに、一人一人が自分の考えについて他者と討論することによって、探求すること、説明をすること、根拠付けをすることなど問題の解決や探求活動に必要なスキルを身に付け、学んだ知識と組み合わせて問題解決的な学習を取り入れることにより、科学的思考力や創造力を養う。</p>
学習のねらい	<p>①論理的思考力を構成する様々な推論形式（ピアジェの形式的思考操作）を強化することによって、認知能力の促進・加速を図る。 ②グループやクラス全体の議論を通して十分な経験と反省をさせ、批判的思考、複眼的思考、分析的思考操作の方法を身に付ける。 ③各思考操作を、各作業を通じてその都度直接に習得させることを目的としているのではない。2年間の授業を通じて、形式的操作一般の能力の発達を加速・促進させるのがねらいである。</p>
評価の観点	<p>①課題を解決するために実証的、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりして問題解決に当たることができる。 ②形式的思考操作ができる。 ③他者の意見を論理的な思考によって判断し、その意見に対する自分の考えを持つことができる。 ④自分の意見を適切にまとめ、効果的な発表ができる。</p>
先生からアドバイス (授業の受け方、ノート の取り方など)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の結論を覚えたりする必要はありません。プリントは友達と討論するためのメモに過ぎませんので、その時間にしっかりと考えて自分の意見を述べるようにしましょう。 ・先生と対話したり、友だちと討議をしたりして考えを深めるという体験をしましょう。 ・グローバルで学習している言語技術の手法を利用して、意見が言えたり、文章が書けたりできるようになりましょう。

年間授業計画表 (45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント	
前期	4	【組み合わせ】選択肢 (15)	2	・すべての場合の数え上げを行う。	
	5	【変数】相互作用 (16)	2	・酵母菌、鉄さびについての実験を通して、二つの「入力変数」が合わさって「結果の変数」が大きくなるような現象について考える。	
		【蓋然性】コインを回す (17)	2	・コインの表が連続して出る頻度と試行回数との関係を調べ、確率的現象の振る舞いを知る。	
	6	【蓋然性】紅茶の味見 (18)	2	・特殊な能力を持つ人がいると仮定して、5回のうち何回当たればその人の能力を信じることができるかを考える。	
	7	【相関性】わらじ虫の行動 (19)	1	・状況の違う4カ所を設定し、わらじ虫がどこに最もよく移動するかを調べ、得られたデータから考察を行う。	
		【相関性】処理と効果 (20)	1	・相関関係が何を意味するかを示す例を提示し、相関関係を理解することは確率を理解することに依存することを体験させる。	
	8	【蓋然性】サイコロを投げる (22)	1	・確率の最後の活動としてサイコロを用いて確率の概念をまとめる。	
		【形式的モデル】物質の状態・溶液・化学変化 (23・24・25)	2	・観察したことをモデル化する。	
	9	【複合的な変数】圧力・浮かぶ・沈む (26・27)	2	・複数の変数に関係して複合的な変数があることを確認し、複合した変数の使い方を理解する。	
	後期	10	【平衡】丘を登り、谷を下る (28)	2	・平衡を保つための条件を探る。
【複合的な変数】ダイバー (29)			1	・密度の概念を導入して複合的な変数について再度考察を行う。	
【平衡】つりあいを取り戻す (30)			1	・てんびんの平衡を保つための条件を整理する。	
11		課題研究について	(19)		
		オリエンテーション	1		
		12	課題研究の進め方	1	
			文献調査について	2	
			論文講読	2	
		1	ゼミを決めについて	2	
			テーマ設定、検討	8	
2	課題研究発表会参加	2	・課題研究発表会に参加し、質問やディスカッションを行う。		
3	テーマ設定、検討	1			
		総時間数	39		